2026.8

ダイヤⅡキーパー
作業マニュアル

⚠ 脚立使用時の注意事項

ダイヤⅡキーパー	P3～P19
ダイヤⅡキーパー プレミアム仕様	P20～P22
ダイヤⅡキーパー メンテナンス	P23～P46
オプション 鉄粉取り	P47
オプション 細密研磨	P48
撥水効果についての基礎知識	P49

KeePer技研株式会社

⚠ 脚立使用時の注意事項



脚立は安全のため
以下の項目に注意して使用する。

※脚立は、取扱説明書に従って正しく使用する。

●使用時は安全のためにヘルメットを
着用する。



●脚立の滑り止めが
剥がれている
脚立は使用しない。



●脚が 4 点とも接地し、
ぐらつかず自立した状態で使用する。



●使用時に転びそうになった場合は、
持っている道具を放し、両手で身を守る。

ダイヤⅡキーパーで使用するツール

STEP.2 汚れ落とし工程で使用

●爆ツヤ または 爆白ONE
●爆ツヤ専用小分けボトル
　または 爆白ONE専用小分けボトル
●スポンジ 青
●ラ・モップⅡ



STEP.3 ガラスコーティングで使用

●ダイヤモンドキーパーケミカル
●マイクロスポンジ
●ダイヤクロス



STEP.4 レジンコーティングで使用

●ダイヤⅡレジン
●レジン用スポンジB
●レジンクロス



●キーパークロス



●KeePer チェックライト



●快洗Taoる



●チェックボード



ダイヤⅡキーパープレミアム仕様で使用するツール ※上記ツールも含む

ボンネット・トランク・ドア・給油口の内側

●ダイヤモンドキーパーケミカル
●ダイヤⅡレジン
●グラスアップゼロ



無塗装樹脂パーツ

●ベストブラックⅡ
●爆ツヤ または 爆白ONE



レンズ類・バイザー

●ポリカコート
●爆ツヤ または 爆白ONE



窓ガラス全面

●シリコンウインドウKeePer
●シリコンウインドウKeePer仕上げ剤
●グラスポリッシャーGPⅢ



ホイールコーティング

●ホイールコーティング2
●ホイールクリーナー



エンジンルーム

●レジン2
●ホイールクリーナー



タッチパネル

●スマホキーパー



除菌・車内清掃

●スチーム除菌
●内窓クリーナー



便利品

●ブレーキダストクリーナー（B.D.C）



●B.D.C用スプレー容器



●ホイール用スポンジ



●タイヤキーパースタンダード・またはタイヤキーパー



●柄付 タイヤスポンジ



●脚立・ヘルメット



⚠ 注意：
● 脚立使用時は安全のためにヘルメットを着用する。

ダイヤIIキーパー・ダイヤIIキーパープレミアム仕様 施工内容

ダイヤIIキーパー P3～

ボディ



ダイヤモンドキーパーケミカル・ダイヤIIレジン・爆ツヤ または 爆白 ONE





ダイヤIIキーパープレミアム仕様 P20～

ボディ



ダイヤモンドキーパーケミカル・
ダイヤIIレジン
爆ツヤ または 爆白 ONE



レンズ・バイザー



ポリカコート
爆ツヤ または 爆白 ONE



エンジンルームの中



レジン2
ホイールクリーナー



窓ガラス



シリコンウインドウ KeePer
シリコンウインドウ KeePer 仕上げ剤
グラスポリッシャー GPIII



除菌・車内清掃



スチーム除菌



ボンネット・トランク・ドア・給油口の内側



ダイヤモンドキーパーケミカル・ダイヤIIレジン
グラスアップゼロ







※ドアは、内側のステップ部分、
開けたドア側を施工

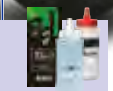
タッチパネル



スマホキーパー



無塗装樹脂パーツ



ベストブラックII
爆ツヤ または 爆白 ONE



ホイール



ホイールコーティング 2
ホイールクリーナー



※通常のホイールは
ホイールコーティング(ダブル)、
マットホイールには
「マットホイールコーティング」を施工

ダイヤIIキーパー 作業の流れ

STEP.1	洗車	P4
オプション	鉄粉取り（鉄粉が付着している場合）	P47
STEP.2	汚れ落とし（コーティング前処理）	P5～8
オプション	細密研磨（経年車で塗装が劣化している場合）	P48
STEP.3	ガラスコーティング	P9～P12
STEP.4	レジンコーティング	P13～P19

夏2時間～冬5時間の自然硬化 または コーティングホールド

⚠ 注意：アドバンストドライブのLiDAR表面には ボディーコートを施工しないでください。

撥水コーティング剤がLiDAR表面に付着すると、雨天時にセンサ表面に細かな水滴が発生し、センサが汚れと誤検知され、「LiDAR 一時使用できません」と表示される場合があります。
（レクサス「LS」・トヨタ「ミライ」等）



（写真）フロントナンバー下のLiDAR

STEP. 1 洗車

❶ 手洗い又は、洗車機で水洗いをします



参考
- 経年車の場合、汚れに応じて
  下記の専用ケミカルをあらかじめかけておくと
  その後の前処理の作業効率がよくなります。

「虫」汚れには

インセクトリムーバー

使用するツール

インセクトリムーバー
（ボディ・ガラス面の強力虫取り剤）





虫が付いている箇所に水をかけ
インセクトリムーバーをスプレーする。

「ピッチ・タールの汚れ」には

タールリムーバー

使用するツール

タールリムーバー
（ピッチ・タールクリーナー）





ピッチが付いている箇所に水をかけ、
タールリムーバーをスプレーする。

「ホイールの油汚れ・ブレーキダスト」には

ブレーキダストクリーナーB.D.C

使用するツール

ブレーキダストクリーナーBDC
（自動車用ホイール洗浄剤）





B.D.Cをホイールの中心から噴き付け、
汚れが浮いてきたら高圧スプレーで洗い流す。

※ホイールコーティングを
する場合は、
「ホイールクリーナー」で
前処理を行います。

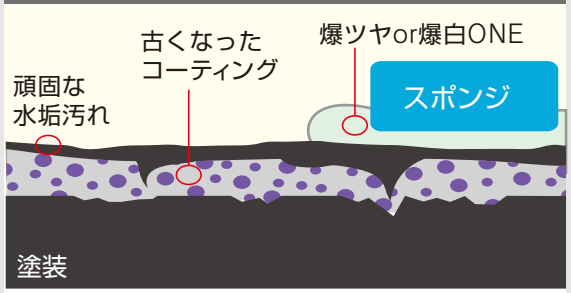




STEP.2 汚れ落とし工程

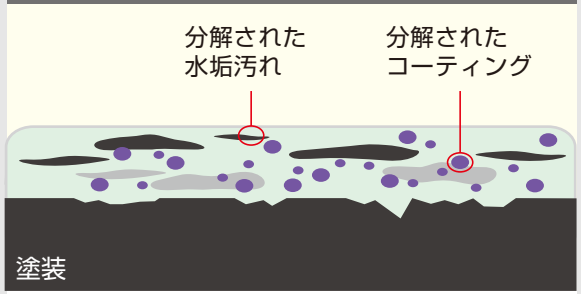
塗装表面の汚れを落とします

爆ツヤor爆白ONEを塗る



1スパンずつ隙間なく塗り広げる。

付け置き



化学的な力で、汚れを分解し
浮かせる。(付け置き)

汚れを動かす



浮いた汚れを軽く動かして崩す。

用意するもの



爆ツヤ（水垢落とし剤）

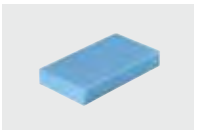
- どれだけゴシゴシ擦ってもキズが付くどころか、むしろツヤが出るほど安全性を持った未だかつてない超安全な、強力洗浄剤です。
- 洗浄能力は爆白ONEの87%。コーティング塗布前の「脱脂」の機能まで持っています。
- 特に新車、黒色車に最適です。



爆白ONE（水垢落とし剤）

- アルカリの化学的な力と、超微粒子パウダーの物理的な力を併せ持ちながら、塗装を決して傷めない安全かつ強力な水垢除去剤です。（特許登録済）
- 水垢汚れだけでなく、古くなったコーティングをすっきりと落とすことができ、あらゆるコーティングの下地処理として有効です。<特許番号　第4077734号>

●スポンジ 青



●作業用ゴム手袋
（爆ツヤ・爆白ONE作業時のみ使用）



●ラ・モップ Ⅱ



STEP.2　汚れ落とし工程

洗車後、ボディが濡れた状態で作業を行う

❶ 「爆ツヤ」または「爆白ONE」を
「スポンジ 青」に適量取る

＊太線1本

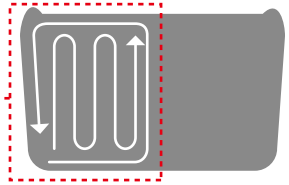




❷ ボンネット半分位の面積に
一定方向に隙間なく
フチまで塗り広げる

＊塗り広げる時の
スポンジの動き

1スパン



＊塗り広げる時の
スポンジの押さえ方
支えるように軽く押さえる。





❸ 3スパンまで❶・❷の
作業を繰り返す



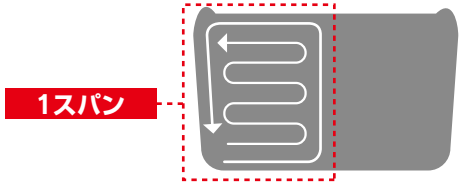


⚠ 注意：
● 「爆ツヤ」または、「爆白ONE」を
ボンネットなどの隙間に入れないよう注意してください。
面の場合は中から塗り広げ、最後に枠を囲めば隙間に入りにくくなります。

STEP.2　汚れ落とし工程

❹ 1スパン目に戻って、塗り広げた塗装面を軽くこする(汚れを動かす)

＊軽くこする時のスポンジの動き



＊軽くこする時のスポンジの押さえ方

手のひら全体でスポンジが半分へこむ位の力で押さえる







参考

- よりきれいにするために、ドアノブのツメによるキズの汚れやエンブレムなど細かな所は特にしっかりと汚れを落とします。

❺ ボディ全体に❶～❹の作業を行う





注意：

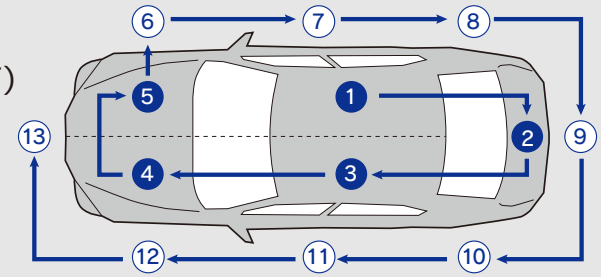
- ガラス面に撥水加工されているお車の場合、撥水効果が落ちることがあります。液ダレしないように注意してください。

参考

- 作業中ボディが乾きそうな時には、水をかけて乾かないようにすると作業が早くすみます。(乾いても塗装に害はありません)

作業の流れ

(●上面、○側面)





STEP.2　汚れ落とし工程

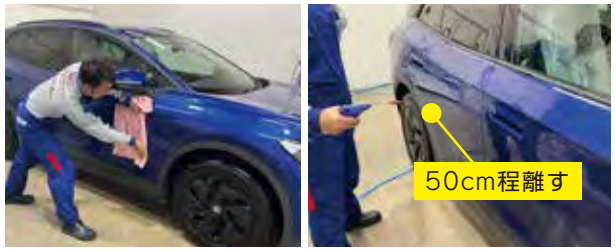
❻ ラ・モップⅡを使って「爆ツヤ」または、「爆白ONE」をしっかりと洗い流す



参考
- 隙間や細かい部分を特にしっかりと洗い流します。

---

❼ 合成セームで水減らしをし、エアーガンでタオルで拭けない隙間の水を飛ばす



注意
- 塗装にエアーガンを近づけ過ぎると、塗装を飛ばす恐れがあるため、50cm程離します。

参考
- ドアミラー、ドアノブ、ワイパー周り、バイザー内側、給油口、アンテナ、ホイール・タイヤ、フロントグリルは、特に念入りに行います。

---

❽ ボディ、窓、ステップ、ボンネットの裏の水を拭き上げ

使用ツール
(左)キーパークロス
(右)快洗Taoる

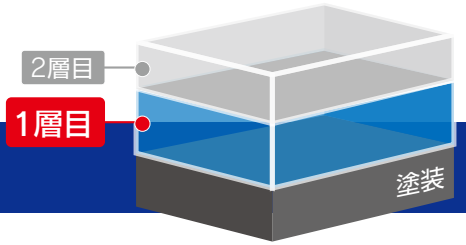




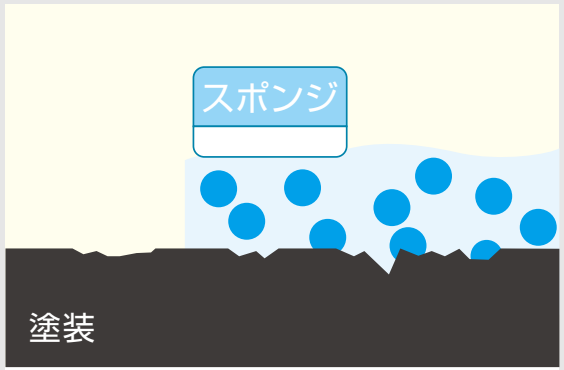
注意：
- ステップ、ボンネット裏は砂やホコリ等が付着するので、別のタオルを使用してください。
  ステップ等を拭いたタオルを窓ガラス、ボディで使用するとキズの原因になります。

参考
- ボディの水滴を「キーパークロス」、窓の水滴を「快洗Taoる」で拭き取ってください。

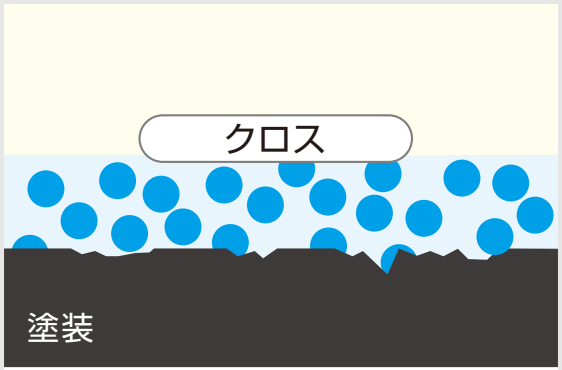
STEP.3 ガラスコーティング



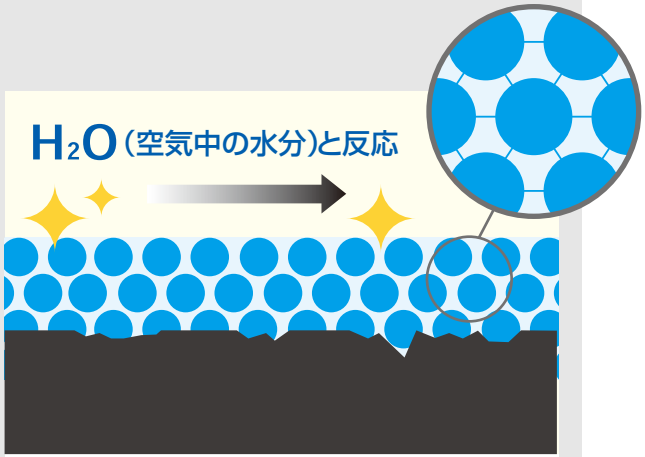
一層目のガラス被膜を形成します



ダイヤモンドキーパーケミカルを塗る。



余分な液を拭き取る。



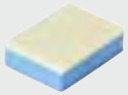
空気中の水分（湿気）と反応をし
高密度ガラス被膜が形成される。

用意するもの



ダイヤモンドキーパーケミカル
（ボディガラスコーティング剤）

●最高級品質のツヤと光沢を出す本物のボディ
ガラスコーティング剤。施工性の良さも魅力です。
●塗装を傷める成分を一切含まないので、
安全に施工することができます。
<ドイツSONAX社と共同開発商品>



マイクロスポンジ

ダイヤモンドキーパーケミカルなど
コーティング用
※新品を使用してください。



ダイヤクロス（×4枚以上）

ダイヤモンドキーパーケミカルなどの
拭き上げ用のクロス。
※1台施工ごとに洗えば再使用できます。



STEP.3　ガラスコーティング

塗装面が乾いた状態で作業を行ってください。

**●ダイヤモンドキーパーの施工はピット内など
ホコリのない場所で行ってください。**

ホコリが舞うようなところでの施工は
ボディに傷をつける原因となります。

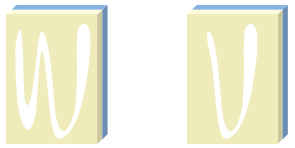


**●炎天下はもちろん、
温度が高い場所での施工は避けてください。**

炎天下やボディが熱い状態で施工すると急激な反応により、
塗りムラや拭きづらくなるといった現象が出る場合があります。
ボディが熱い場合は、よく冷ましてから施工してください。

❶ 乾いた「マイクロスポンジ」に「ダイヤモンドキーパーケミカル」をスプレー

＊最初は2往復（Wの字）　＊以降は1往復（Vの字）

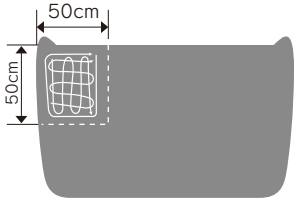




参考
- 飛散した「ダイヤモンドキーパーケミカル」が付着しないよう、
  車に背を向けて、
  スプレーノズルと「マイクロスポンジ」を近づけてスプレーします。

❷ 約50cm四方の面積に、タテヨコに隙間なくフチまで塗り広げる

＊スポンジの動き



＊スポンジの持ち方
スポンジを
軽く掴むように持つ





注意：
- 1スパンの面積を約50cm四方の面積よりも
  広くしないでください。（被膜として必要な厚みが確保できません）

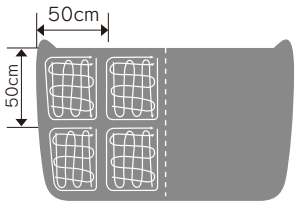
参考
- スポンジの動きが重く感じたら
  「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。

STEP.3　ガラスコーティング

❸ ボンネット半分位の面積に❶❷の作業を繰り返す

参考
- となりのスパンと少し重なるようにして隙間なく塗り広げてください。
- 湿度が高い場合は、小さくすると施工しやすくなります。

＊スポンジの動き

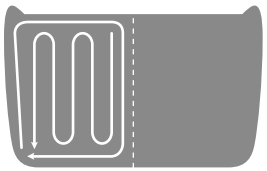




❹ 1枚目の乾いた「ダイヤクロス」で拭く

参考
- ケミカルが硬化する前に拭き上げてください。
- クロスは面を換えながら拭き上げてください。

＊クロスの動き



＊クロスの持ち方
クロスのカドを親指でロックするように挟む

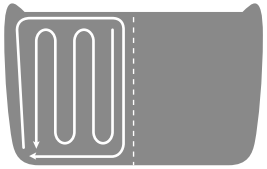


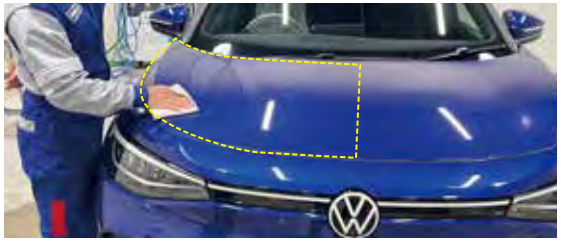


❺ 2枚目の乾いた「ダイヤクロス」で仕上げる

参考
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

＊クロスの動き





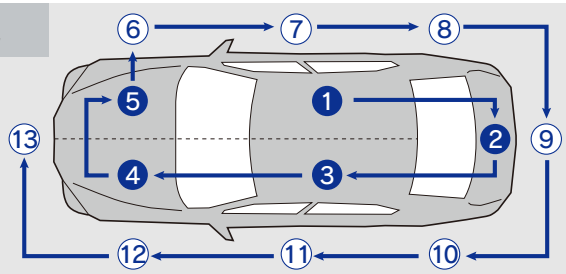
STEP.3　ガラスコーティング

❻ ボディ全体に❶～❺の作業を行う

参考
- ゴム・無塗装樹脂パーツなど、ボディ以外のパーツに付かないように塗布してください。(付いても害はありません)

コーティングの流れ

(●上面、◯側面)





ワンポイントアドバイス

●拭き残しが取れない場合は…

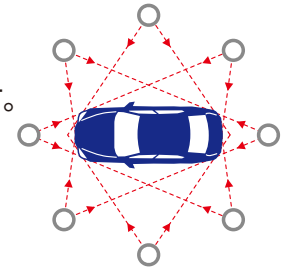
ダイヤモンドキーパーケミカルをマイクロスポンジに少量付け、その部分を軽くこすってから、速やかに拭き取りましょう。

●飛散したダイヤモンドキーパーケミカルがボディ以外に付いた場合は…

ウィンドウガラス編	窓用クリーナーなどを、キーパークロスに付けてこすると簡単に落ちます。
ゴム、プラスチック編	湿らせて固く絞ったキーパークロスで拭き取ります。

❼ 拭き残しなどを確認

施工を終えたら、いろいろな角度から施工車を見て、拭き残しがないか確認します。





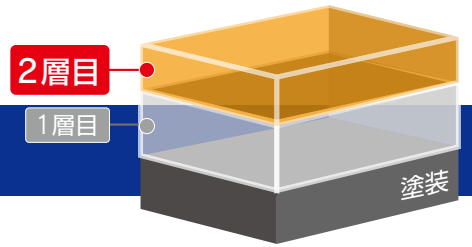
参考
- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認。
  側面は、ボディに映り込んだ「チェックボード」等に拭き残しがないか確認します。
- もしくは「KeePerチェックライト（推奨）」でボディ全体に拭き残しがないか確認します

使用ツール
(左)KeePerチェックライト
(右)チェックボード

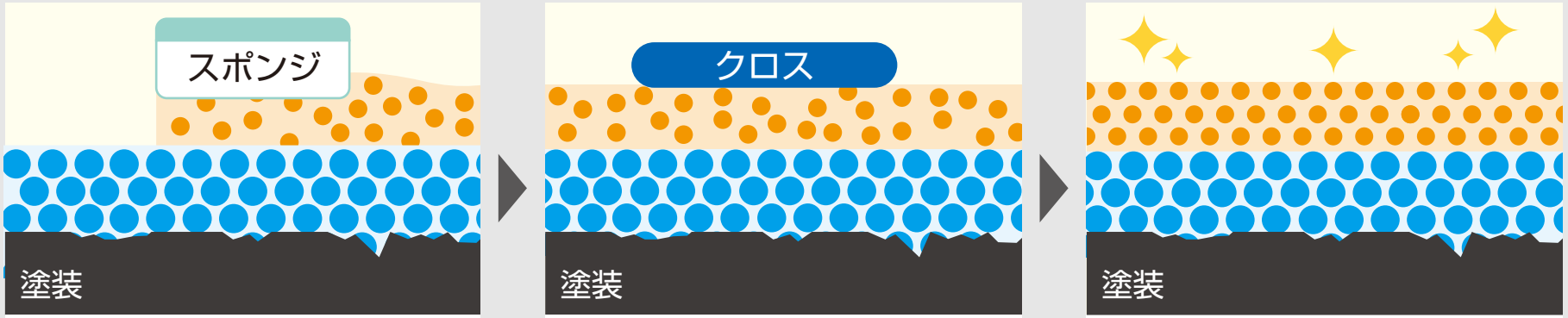




STEP.4 レジンコーティング



2層目のレジン被膜を形成します



ダイヤⅡレジンを塗る。

余分な液を拭き取る。

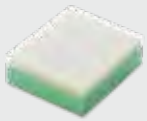
ガラス被膜の上にレジン被膜が定着。

用意するもの



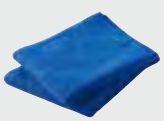
ダイヤⅡレジン （レジンコーティング剤）

●ダイヤⅡキーパー専用 有機レジン
第三者機関に依頼し、黒色塗装板を使い「ダイヤⅡキーパー」と「ダイヤモンドキーパー」をそれぞれ半分ずつ施工。分光測色計で、光の乱反射（白ボケ）の総量を測定したところ、本試験条件においては、明度の変化が「ダイヤモンドキーパー」に比べ2倍以上あり、光の乱反射が抑えられる（塗装表面が平滑になる＝新車の状態に近づく）事が測定されました。*



レジン用スポンジB

ダイヤⅡレジン・FRESHレジン用
※新品を使用してください。



レジンクロス （×6枚以上）

FRESHレジン、ダイヤ Ⅱ レジン、
レジン2の拭き上げ用のクロス。
※1台施工ごとに洗えば再使用できます。



STEP.4　レジンコーティング

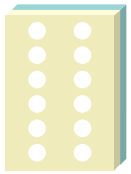
❶「レジン用スポンジB」に「ダイヤⅡレジン」を適量つける

⚠注意：
● ダイヤⅡレジンは、開封後も冷蔵(凍)保管で72時間使用可能です。

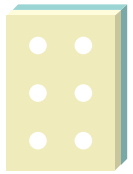
＊キャップの開け方
下に押し込みながら
反時計回りに回します。



＊最初は12滴



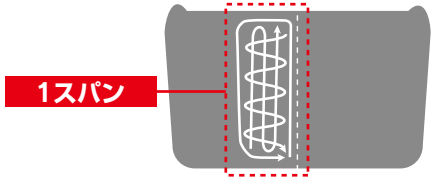
＊以降は6滴





❷ ボンネット1/4位の面積にタテヨコに隙間なくフチまで塗り広げる

＊スポンジの動き



＊スポンジの持ち方
軽く掴むように持つ



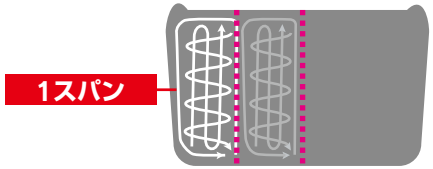


⚠注意：
● 1スパンの面積をボンネット1/4よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)

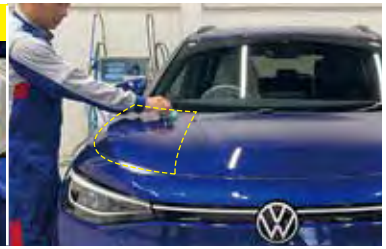
参考
● 「レジン用スポンジB」の動きが重く感じたら「ダイヤⅡレジン」を足してください。

❸ となりのスパンに、❶～❷の作業を繰り返す

＊スポンジの動き





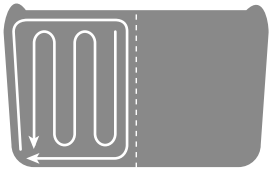


参考
● となりのスパンと少し重なるようにして隙間なく塗り広げてください。
● 湿度が高い場合は、❸の面積を小さくすると施工しやすくなります。

STEP.4　レジンコーティング

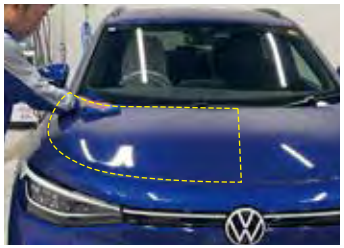
❹ 1枚目の乾いた「レジンクロス」で クロスの面を換えながら2回拭く

＊クロスの動き



＊クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む

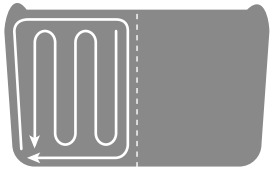




参考
- 「ダイヤⅡレジン」が乾く前に速やかに拭き上げてください。
- 拭き取りにくくなったら、「レジンクロス」を換えてください。
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

❺ 2枚目の乾いた「レジンクロス」で クロスの面を換えながら2回仕上げ拭き

＊クロスの動き



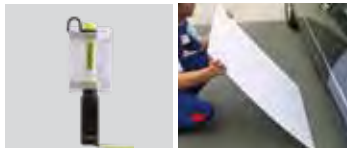


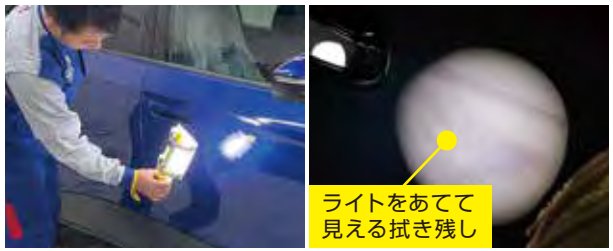
参考
- クロスは面を換えて拭き上げてください。
- 「レジンクロス」はどちらの面を使用しても
  仕上がりに差はありません。

❻ 1パネル毎に仕上げ、 拭き残しがないか確認

⚠ 注意：
- 拭き残しが出来ると、拭き取りにくくなるため拭き方は、
  1スパンずつ確実に仕上げる。

使用ツール
(左)KeePerチェックライト
(右)チェックボード





「チェックライト」で塗装面を照らして、ライトの映り込みを
見ながら拭き残しをチェックする

参考
- ダイヤⅡレジンは、拭き残しが固まって拭けなくなるため（クリーナーで取れる）
  濃色車・淡色車でも容易に拭き残しが確認できる「KeePerチェックライト」・「チェックボード」の使用を推奨してます。
- 拭き残しがなければ、余計に拭く必要はありません。

STEP.4　レジンコーティング

❼ ボディ全体に❶～❻の作業を行う



⚠ 注意：

- エンブレムやドアノブなど、細部に「ダイヤⅡレジン」が入り込まないよう、細部から塗らず広い面を塗り広げてから、細部を塗るようにしてください。

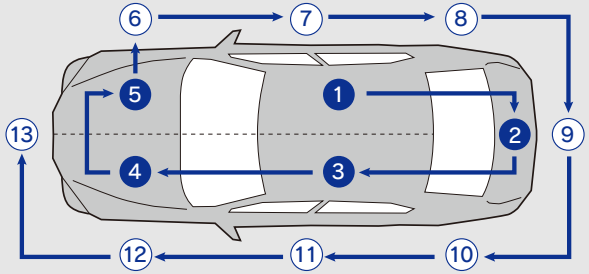




- もし「ダイヤⅡレジン」が隙間に入った場合は、エアーガンで吹き飛ばしてください。

ダイヤⅡレジン
コーティングの流れ

（●上面、○側面）





参考

- 作業の途中で、拭き取りにくくなったら「レジンクロス」を換えてください。
- 作業の途中で、塗り広げにくくなったら「レジン用スポンジB」を換えてください。

STEP.4　レジンコーティング

❽ 仕上がり確認

参考
- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認。
  側面は、ボディに映り込んだ「チェックボード」等に
  拭き残しがないか確認します。
- もしくは「KeePerチェックライト（推奨）」で
  ボディ全体に拭き残しがないか確認します。
- 拭き残しがあれば、乾いた「レジンクロス」で仕上げ拭き。
  窓、レンズ類、樹脂パーツは、水で固く絞った「キーパークロス」で
  拭き上げます。



蛍光灯などの映り込みを見ながら
拭き残しがないか確認します。



ボディに映り込んだ「チェックボード」に
拭き残しが映らないか確認します。





使用ツール
(左)キーパークロス
(中)チェックボード
(右)KeePerチェックライト



●拭き残しが固まって取れない場合は、一旦レジン拭き残しクリーナーで、すべてを取り除いてやり直しです

① レジン拭き残しクリーナーをキーパークロスに大きくWを描くように付けて、
1パネル全体にタテヨコ隙間なく擦って拭き取る
※それでも取れない場合は、レジン拭き残しクリーナーをよく含ませた
ティッシュ（余分な成分が含まれていないもの）を
拭き残し箇所につけて、10分程度時間をおいてから拭き取る。
（色のついたマイクロファイバークロス・タオルは、色移りをする可能性があるため使用しない）

② 拭き残しが取れたことを確認してから、
一層目のダイヤモンドキーパーケミカル、二層目のダイヤⅡレジンを施工

③「KeePerチェックライト（推奨）」で拭き残しがないか確認し完了

使用ツール
レジン拭き残し
クリーナー





⚠ 注意：
- 1パネル全体を行う理由は、ダイヤⅡレジンは施工時間が経ってから重ねて塗るとムラになる場合があるためです。

STEP.4　レジンコーティング

❾ 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化
もしくはコーティングホールドの作業を行う



参考

● ダイヤⅡキーパーは、すべてを施工した後、
水や雨に濡れない環境ならば「夏2時間～冬5時間」の自然硬化をさせて完了です。
すぐに室外に出して雨などに濡れる可能性がある場合は、
施工後10分間置いてから「コーティングホールドの作業」を行い、完了です。

ワンポイントアドバイス

●コーティング施工時のNGな動作集



スポンジを押さえる時に力を入れすぎ



スポンジを握るようにして使う



クロスを握るようにして使う



ボディに体重をかける



クロスを広げたまま使う



円を描くように塗布する



容器や道具をボディに載せる

コーティングホールドを行う場合

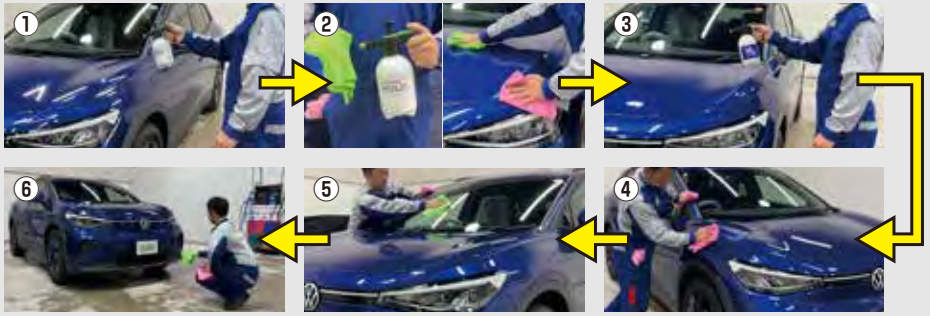
❶「コーティングホールド」の作業を行う

参考
● 屋内で「夏2時間～冬5時間」の自然硬化と、
コーティングホールドで時間短縮をした場合では仕上がりと品質は変わりません。

コーティングホールドを行う場合の使用ツール
(左)コーティングホールド、コーティングホールド用蓄圧式スプレー、キーパークロス
(右)純水、純水用蓄圧式スプレー、快洗Taoる



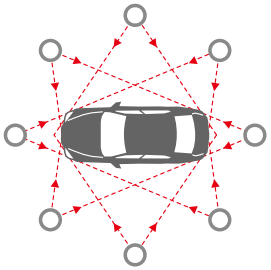
ダイヤIIキーパー施工後、必ず「10分間置いてから」作業する
① 「コーティングホールド」をボディ全体に噴霧
② 「コーティングホールド」を噴霧した「キーパークロス」でボディを拭き押さえる
③ ボディ全体に蓄圧式スプレーなどで「純水」をたっぷりかける
④ 「快洗Taoる」で、ボディにかけた「純水」を拭き上げる
⑤ 窓、レンズ類、樹脂パーツを、水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げる
⑥ 水滴残りがないか確認



❷ 仕上がり確認

もう一度、全体がしっかりコーティングがされているか、
拭き残しがないか、いろいろな角度から確認します。

参考
● 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。





プレミアム仕様

ダイヤⅡキーパー プレミアム仕様
作業マニュアル

ダイヤⅡキーパー・プレミアム 施工箇所

ボディ



ダイヤモンドキーパーケミカル・
ダイヤⅡレジン
爆ツヤ または 爆白 ONE



レンズ・バイザー



ポリカコート
爆ツヤ または 爆白 ONE



エンジンルームの中



レジン2
ホイールクリーナー



窓ガラス



シリコンウインドウ KeePer
シリコンウインドウ KeePer 仕上げ剤
グラスポリッシャー GPⅢ

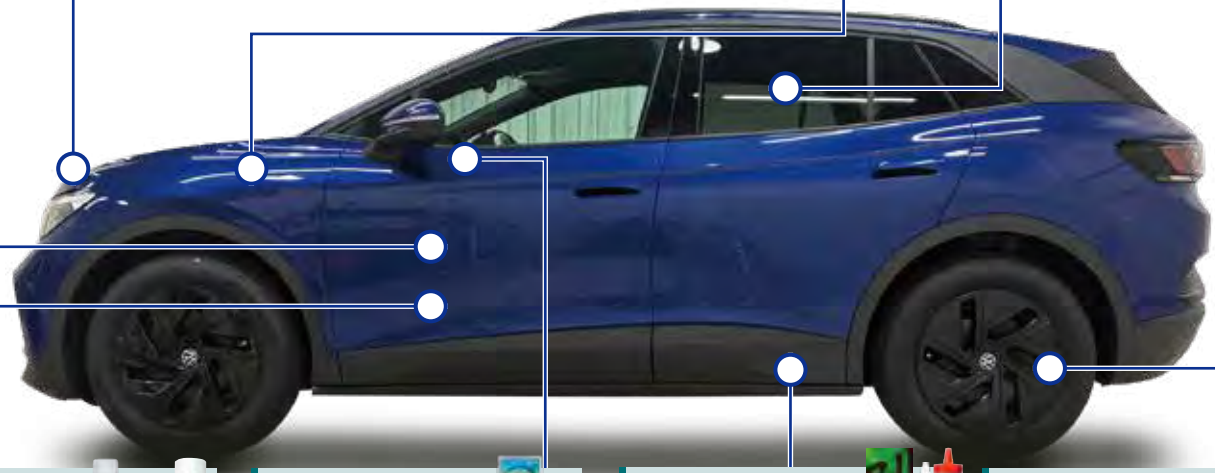


除菌・車内清掃



スチーム除菌





ボンネット・トランク・ドア・給油口の内側



ダイヤモンドキーパーケミカル・ダイヤⅡレジン
グラスアップゼロ



※ドアは、内側のステップ部分、
開けたドア側を施工

タッチパネル



スマホキーパー



無塗装樹脂パーツ



ベストブラックⅡ
爆ツヤ または 爆白 ONE



ホイール

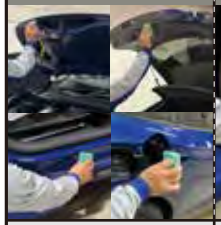


ホイールコーティング 2
ホイールクリーナー



※通常のホイールは
ホイールコーティング(ダブル)、
マットホイールには
「マットホイールコーティング」を施工

ダイヤⅡキーパープレミアム 作業の流れ

	ボンネット・トランク・ドア・給油口の内側	ホイールコーティング ダブル	ホイールコーティング マット	レンズ・バイザーコーティング	シリコンウインドウキーパー	無塗装樹脂パーツ	エンジンルームの中	タッチパネル	除菌・車内清掃
									
	使用ツール ●ダイヤモンドキーパーケミカル ●ダイヤⅡレジン ●グラスアップゼロ 	**使用ツール** ●ホイールコーティング2 ●ホイールクリーナー 	**使用ツール** ●マットテクスチャガラス ●マットテクスチャレジン ●マットホイールキーパーブラシ ●ホイールクリーナー 	**使用ツール** ●ポリカコート ●爆ツヤ または爆白ONE 	**使用ツール** ●シリコンウインドウKeePer ●シリコンウインドウKeePer仕上げ剤 ●グラスポリッシャーGPⅢ 	**使用ツール** ●ベストブラックⅡ ●爆ツヤ または爆白ONE 	**使用ツール** ●レジン2 ●ホイールクリーナー 	**使用ツール** ●スマホキーパー 	**使用ツール** ●スチーム除菌 
STEP.1 洗車	洗車	洗車	洗車	洗車	洗車	洗車	ホイールクリーナーで洗　浄		
STEP.2 汚れ落とし	グラスアップゼロ	ホイールクリーニング	ホイールクリーニング	爆ツヤ または爆白ONE	油膜取り	爆ツヤ または爆白ONE			
STEP.3 ガラスコーティング	ダイヤモンドキーパーケミカル	ホイールコーティング（1回目）	マットテクスチャガラス						
STEP.4 レジンコーティング	ダイヤⅡレジン	ホイールコーティング（2回目）	マットテクスチャレジン	ポリカコート	シリコンウインドウKeePer	ベストブラックⅡ	レジンコーティング	スマホキーパー 付属のアルコール綿で除菌・洗浄してから施工	スチーム除菌 車内清掃
コーティングホールド		（コーティングホールド）	マットホイールキーパーブラシで掻き出す （コーティングホールド）	（コーティングホールド）		（コーティングホールド）			

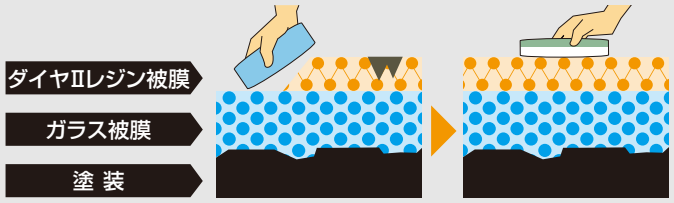
※ダイヤⅡキーパーのホイールコーティングは【ダブル】または【マットホイールコーティング】になります。※各工程の作業内容は別途マニュアルを参考ください。

ダイヤⅡキーパー
メンテナンス作業マニュアル

Aメンテナンス	P26～P32
プレミアム仕様 Aメンテナンス	P33～P35
Bメンテナンス	P36～P43
プレミアム仕様 Bメンテナンス	P44～P46

A メンテナンス P26〜

Aメンテナンスは新鮮なダイヤⅡレジン被膜に入れ替えます。



ボディ

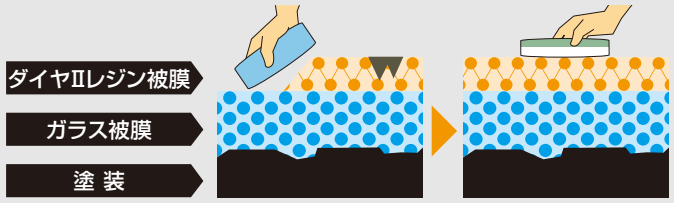
ダイヤⅡレジン・爆ツヤ(爆白ONE)またはEクリーナー



プレミアム仕様 A メンテナンス P33〜

※ドア内側のステップ部分にも施工

プレミアム仕様Aメンテナンスは新鮮なボディのダイヤⅡレジン被膜を入れ替るのに加え、
ドア・ホイール・窓ガラス・レンズ・無塗装樹脂パーツの被膜を入れ替えます。



ボディ

ダイヤⅡレジン・
爆ツヤ(爆白 ONE)または E クリーナー



ドア内側のステップ部分

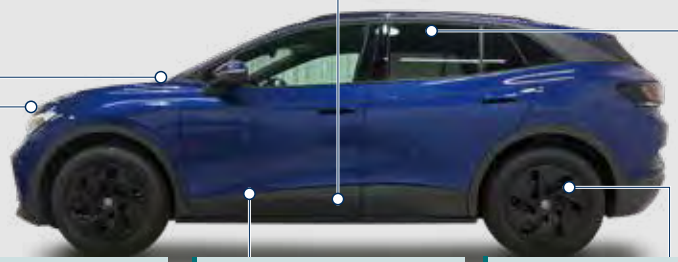
ダイヤⅡレジン・
グラスアップゼロ



窓ガラス

シリコンウインドウ KeePer
シリコンウインドウ KeePer 仕上げ剤
グラスポリッシャー GPⅢ





レンズ・バイザー

ポリカコート
爆ツヤ or 爆白 ONE



無塗装樹脂パーツ

ベストブラックⅡ
爆ツヤ or 爆白 ONE



ホイール

ホイールコーティング 2
ホイールクリーナー

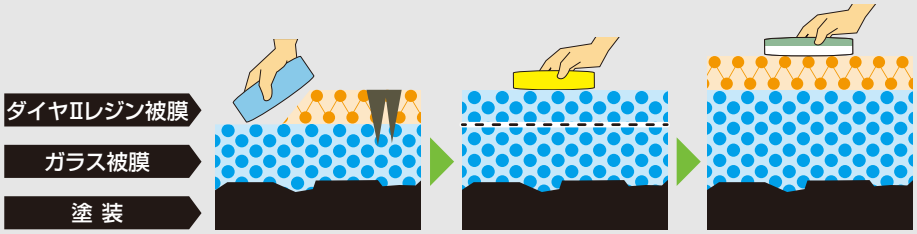


※通常のホイールはホイールコーティング(ダブル)、
マットホイールには「マットホイールコーティング」を施工

B メンテナンス

P36〜

Bメンテナンスは下部のガラス被膜を整え、新鮮なダイヤIIレジン被膜に入れ替えます。



ボディ

ダイヤIIレジン・ダイヤモンドキーパーケミカル・
爆ツヤ または 爆白ONE

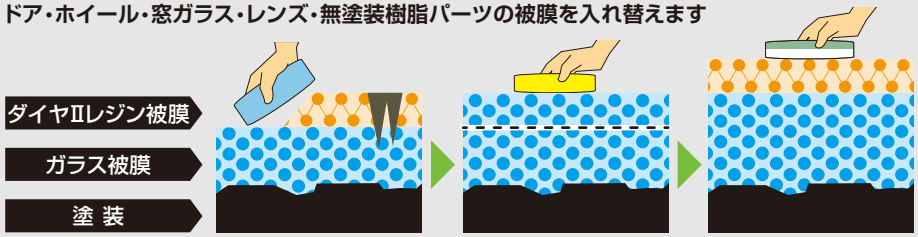


プレミアム仕様 Bメンテナンス

P44〜

※ドア内側のステップ部分にも施工

プレミアム仕様Bメンテナンスは下部のガラス被膜を整え、
ダイヤIIレジン被膜を入れ替るのに加え、
ドア・ホイール・窓ガラス・レンズ・無塗装樹脂パーツの被膜を入れ替えます



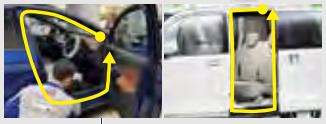
ボディ

ダイヤIIレジン・
ダイヤモンドキーパーケミカル・
爆ツヤ または 爆白 ONE



ドア内側のステップ部分

ダイヤIIレジン・
ダイヤモンドキーパーケミカル・
グラスアップゼロ



窓ガラス

シリコンウインドウ KeePer
シリコンウインドウ KeePer 仕上げ剤
グラスポリッシャー GPIII





レンズ・バイザー

ポリカコート
爆ツヤ or 爆白 ONE



無塗装樹脂パーツ

ベストブラックII
爆ツヤ or 爆白 ONE



ホイール

ホイールコーティング 2
ホイールクリーナー



※通常のホイールはホイールコーティング(ダブル)、
マットホイールには「マットホイールコーティング」を施工

DIA II KeePer®

Aメンテナンス

Aメンテナンスで使用するツール

STEP.2 爆ツヤ(爆白ONE)またはEクリーナーで前処理
STEP.3 ダイヤⅡレジン

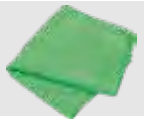
- ●爆ツヤ(爆白ONE)またはEクリーナー
- ●スポンジ 青
- ●ラ・モップⅡ
- ●キーパークロス
- ●快洗Taoる
- ●ダイヤⅡレジン
- ●レジン用スポンジB
- ●レジンクロス



●快洗Taoる



●キーパークロス



●KeePer チェックライト



●チェックボード



Aメンテナンス 作業の流れ

STEP.1	洗車	P28
オプション	鉄粉取り(鉄粉が付着している場合)	P47
STEP.2	汚れ落とし(コーティング前処理)爆ツヤ(爆白ONE)使用の場合	P28
STEP.2	汚れ落とし(コーティング前処理)Eクリーナー使用の場合	P29〜P31
STEP.3	ダイヤⅡレジン	P32

夏2時間〜冬5時間の自然硬化 または コーティングホールド

STEP. 1 洗車

❶ 手洗い又は、洗車機で水洗いをする

作業内容は
「ダイヤⅡキーパー作業マニュアル、STEP. 1 洗車」参照

参照ページ：P4



STEP. 2 汚れ落とし工程（爆ツヤまたは爆白ONEを使用の場合）

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

❶ 「爆ツヤ」または「爆白ONE」で汚れを落とす

作業内容は
「ダイヤⅡキーパー作業マニュアル、STEP. 2 汚れ落とし工程」参照

参照ページ：P5~8



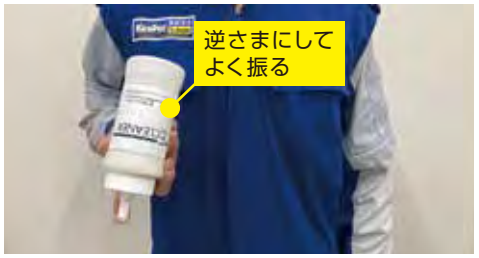
**コーティング施工時にムラつきが残る場合は、
Eクリーナーで整え、その後コーティング施工する。**

STEP.2 汚れ落とし工程(Eクリーナー使用の場合)

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

❶ Eクリーナーを逆さまにしてよく振る

⚠ 注意
- 小分けボトルを逆さまにして、5回以上よく振ってください。
- Eクリーナー(1.7L)を小分けボトルに移し替える際も、よく降ってから移し替えてください。



---

❷ 水で湿らせ固く絞った青スポンジにEクリーナーを適量付ける

＊太線1本



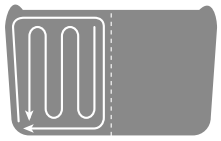


---

❸ Eクリーナーを塗り広げて、クロスの方向にスポンジを動かして、汚れを取る

参考
- 1スパンをボンネット半分程度の大きさで、隙間なくフチまで塗り広げる。
- 汚れが多い場合は、事前に爆ツヤもしくは爆白ONEで洗浄し、その後洗車をし、よくすすいだ後に「Eクリーナー」の作業を行う

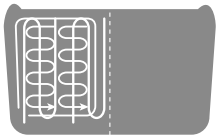
＊塗り広げる



スポンジの持ち方。

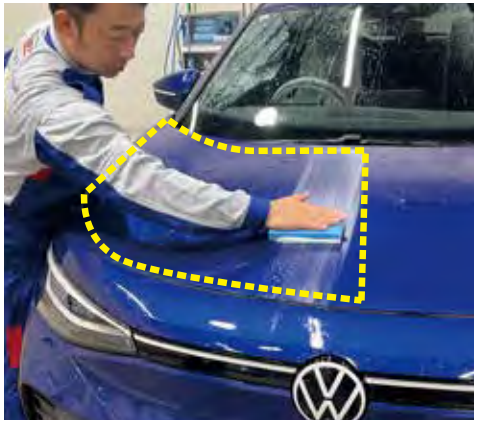


＊汚れを取る



スポンジの持ち方。





STEP.2　汚れ落とし工程（Eクリーナー使用の場合）

❹ ボディ全体に❷❸を繰り返す



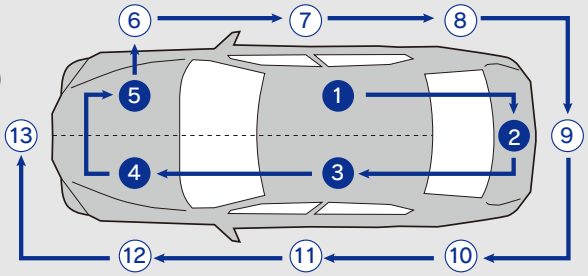


⚠ 注意：

- 劣化したゴム、プラスチックモールなど極力触らない。
  触れた場合は、水に湿らせよく絞ったキーパークロスで拭き取る。

作業の流れ

（●上面、○側面）





❺ エアーガンで、隙間に入った水滴、粉を軽く吹き飛ばす

ポイント

●ワイパー廻り	●タイヤ・ホイール
●バイザー	●給油口
●アンテナ	●ドアミラー
●ドアノブ	●フロントグリル



STEP.2　汚れ落とし工程（Eクリーナー使用の場合）

❻ 固く絞ったキーパークロスと快洗Taoるを両手に持って拭き上げをする

参考
- ボディに付いたEクリーナーをキーパークロス、窓の水滴を快洗Taoるで拭き取る。





---

❼ 最後に拭き残しがないか、キーパークロスと快洗Taoるを用いて、確認しながら仕上げを行う



STEP.3 レジンコーティング

❶ ダイヤⅡレジンを施工する

施工内容は
「ダイヤⅡキーパー STEP4 レジンコーティング」参照

参照ページ：P13～ P18





❷ 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化 もしくはコーティングホールドの作業を行う





参考
- ダイヤⅡキーパーは、すべてを施工した後、
  水や雨に濡れない環境ならば「夏2時間～冬5時間」の自然硬化して完了です。
- すぐに室外に出して雨などに濡れる可能性がある場合は、
  施工後10分間置いてから「コーティングホールドの作業」を行い、完了です。

コーティングホールドの施工内容は
「ダイヤⅡキーパー コーティングホールドを行う場合」参照

参照ページ：P19

DIA II KeePer®

プレミアム仕様

Aメンテナンス

プレミアム仕様Aメンテナンスの施工内容

Aメンテナンス

ボディとドア内側のステップ部分に
「ダイヤⅡレジン」を施工します。



爆ツヤor爆白ONE
または
Eクリーナー

＋



ダイヤⅡレジン





さらに、窓ガラス・レンズ・ホイール・樹脂パーツの被膜を入れ替えます。

窓ガラス

シリコンウインドウKeePer



シリコンウインドウ KeePer
シリコンウインドウ KeePer 仕上げ剤
グラスポリッシャー GPⅢ

レンズ・バイザー

レンズコーティング



ポリカコート
爆ツヤ or 爆白 ONE

ホイール

ホイールコーティング（ダブル）



ホイールコーティング 2
ホイールクリーナー

※通常のホイールはホイールコーティング（ダブル）、
マットホイールには「マットホイールコーティング」を施工

無塗装樹脂パーツ

無塗装樹脂パーツキーパー



ベストブラックⅡ
爆ツヤ or 爆白 ONE

ダイヤⅡキーパー プレミアム仕様Aメンテナンス 作業の流れ

	【Aメンテナンス】		ホイールコーティング		レンズ・バイザーコーティング	シリコンウインドウキーパー	無塗装樹脂パーツ
	ボディ	ドア内側のステップ部分	ダブル	マット			
							
使用ツール	●ダイヤⅡレジン ●爆ツヤ または 爆白ONE またはEクリーナー	●ダイヤⅡレジン ●グラスアップゼロ	●ホイールコーティング2 ●ホイールクリーナー	●マットテクスチャガラス ●マットテクスチャレジン ●マットホイール キーパーブラシ ●ホイールクリーナー	●ポリカコート ●爆ツヤ または 爆白ONE	●シリコンウインドウKeePer ●シリコンウインドウKeePer仕上げ剤 ●グラスポリッシャーGPⅢ	●ベストブラックⅡ ●爆ツヤ または 爆白ONE
STEP.1 洗車	洗車		洗車	洗車	洗車	洗車	洗車
STEP.2 汚れ落とし	爆ツヤ または爆白ONE	グラスアップゼロ	ホイール クリーニング	ホイール クリーニング	爆ツヤ または爆白ONE	油膜取り	爆ツヤ または爆白ONE
STEP.3 レジンコーティング	ダイヤⅡレジン		ホイールコーティング （1回目）	マットテクスチャ ガラス			
コーティングホールド			ホイールコーティング （2回目） （コーティングホールド）	マットテクスチャ レジン マットホイール キーパーブラシで掻き出す	ポリカコート （コーティングホールド）	シリコンウインドウ KeePer	ベストブラックⅡ （コーティングホールド）

※ダイヤⅡキーパーのホイールコーティングは【ダブル】または【マットホイールコーティング】になります。※各工程の作業内容は別途マニュアルを参考ください。



Bメンテナンス

Bメンテナンスで使用するツール

STEP.2 汚れ落とし(コーティング前処理)

●爆ツヤ または 爆白ONE
●爆ツヤ専用小分けボトル または 爆白ONE専用小分けボトル
●スポンジ 青　●ラ・モップⅡ
●キーパークロス　●快洗Taoる



STEP.3 ガラスコーティング

●ダイヤモンドキーパーケミカル
●スポンジ 黄
●ダイヤクロス
●蓄圧式水スプレー



STEP.4 ダイヤⅡレジン

●ダイヤⅡレジン　●KeePerチェックライト
●レジン用スポンジB　●チェックボード
●レジンクロス



Bメンテナンス 作業の流れ

STEP.1	洗車	P37
	オプション **鉄粉取り**(鉄粉が付着している場合)	P47
STEP.2	汚れ落とし(コーティング前処理)	P37
STEP.3	ガラスコーティング	P38〜41
STEP.4	ダイヤⅡレジン	P42
	夏2時間〜冬5時間の自然硬化またはコーティングホールド	

STEP. 1 洗車

❶ 手洗い又は、洗車機で水洗いをする

作業内容は
「ダイヤⅡキーパー作業マニュアル、STEP. 1 洗車」参照

参照ページ：P4



STEP. 2 汚れ落とし工程

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

❶ 「爆ツヤ」または「爆白ONE」で汚れを落とす

作業内容は
「ダイヤⅡキーパー作業マニュアル、STEP. 2 汚れ落とし工程①～⑥」参照

参照ページ：P5～8



⚠ 注意：
- 次の作業（ダイヤモンドキーパーケミカル）は塗装面が濡れた状態で行うため、工程⑦水減らし⑧拭き上げは行わない。

コーティング施工時にムラつきが残る場合は、Eクリーナーで整え、その後コーティング施工する。

STEP.3 ガラスコーティング

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

炎天下を避け、日陰でボディを冷まして作業をしてください。

**●ガラスコーティングの施工はピット内など
ホコリのない場所で行ってください。**

ホコリが舞うようなところでの施工は
ボディに傷をつける原因となります。



**●炎天下はもちろん、
温度が高い場所での施工は避けてください。**

炎天下やボディが熱い状態で施工すると急激な反応により、
塗りムラや拭きづらくなるといった現象が出る場合があります。
ボディが熱い場合は、よく冷ましてから施工してください。

❶ フロントガラスの上部にタオルを当てておく

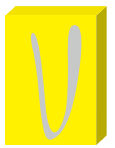


参考
- ケミカルを含んだ水がフロントガラスに垂れないようにタオルを当てておく。
- もしダイヤモンドキーパーケミカルがガラス面についてもクロスで拭けば取れます。

❷ 水に湿らせ固く絞った「スポンジ(黄)」に「ダイヤモンドキーパーケミカル」をスプレー

＊最初は2往復（Wの字）　＊以降は1往復（Vの字）





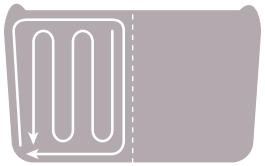


参考
- 飛散した「ダイヤモンドキーパーケミカル」が付着しないよう、
車に背を向けて、スプレーノズルと「スポンジ 黄」を近づけてスプレーします。

STEP.3　ガラスコーティング

❸ ボンネット半分位
一定方向に「隙間」なく
フチまでしっかり塗り広げる

＊スポンジの動き



＊スポンジの持ち方
スポンジを支えるように
軽く押さえます。

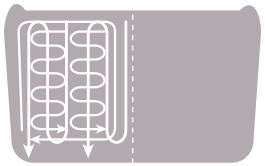




参考
- スポンジ（黄）がボディの水分を含んできたら、絞って「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。
- スポンジの動きが重く感じたら「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。
- 1スパンの面積をボンネット半分の面積よりも広くしないでください。（被膜として必要な厚みが確保できません）

---

❹ ❸で塗り広げた範囲を
クロス方向にすり込み、
ガラス被膜を定着させる



＊スポンジの持ち方
手のひら全体でスポンジが
半分へこむ位の力で押さえる





---

❺ 1枚目の固く絞った「ダイヤクロス」で
拭く

参考
- ケミカルが硬化する前に拭き上げてください。

＊クロスの動き



＊クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む

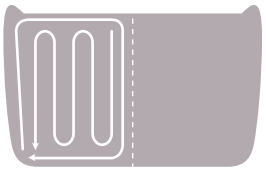




STEP.3　ガラスコーティング

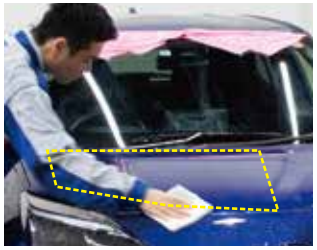
❻ 2枚目の乾いた「ダイヤクロス」で仕上げる

＊クロスの動き



クロスのカドを親指で
ロックするように挟む





参考
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

注意：
- ダイヤクロスは水を固く絞って使ってください。

❼ ボディ全体に❶～❻の作業を行う

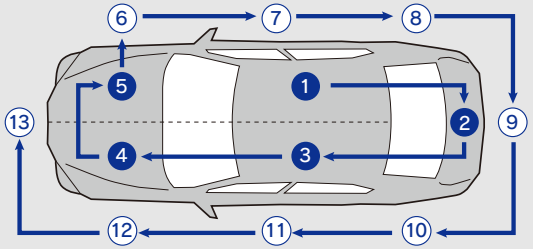


注意：
- 常にボディが濡れた状態で作業をしてください。ボディが乾きそうなときは水スプレーを使ってボディを濡らしてください。
- ウィンドウガラスの水滴は乾く前に拭き取ります。

参考
- ゴム・無塗装樹脂パーツなど、ボディ以外のパーツに付かないように塗布してください。（付いても害はありません）

コーティングの流れ

（●上面、○側面）





ワンポイントアドバイス

●拭き残しが取れない場合は…

ダイヤモンドキーパーケミカルをマイクロスポンジに少量付け、その部分を軽くこすってから、速やかに拭き取りましょう。

●飛散したダイヤモンドキーパーケミカルがボディ以外に付いた場合は…

ウィンドウガラス編　窓用クリーナーなどを、キーパークロスに付けてこすると簡単に落ちます。

ゴム、プラスチック編　湿らせて固く絞ったキーパークロスで拭き取ります。

STEP.3　ガラスコーティング

❽ エアーガンでタオルで拭けない「隙間」の水を飛ばす



参考
- ドアミラー、ドアノブ、ワイパー周り、バイザー内側、給油口、アンテナ、ホイール・タイヤ、フロントグリルは、特に念入りに行います。

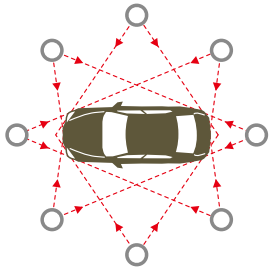
❾ ボディ、窓、ステップ、ボンネット裏の水を拭き取る



注意：
- ステップ、ボンネット裏は砂やホコリ等が付着するので、別のタオルを使用してください。窓ガラス、ボディで使用するとキズの原因になります。

❿ 拭き残しなどを確認

施工を終えたら、いろいろな角度から施工車を見て、拭き残しがないか確認します。









使用ツール
(左)KeePerチェックライト
(右)チェックボード

参考
- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認。側面は、ボディに映り込んだ「チェックボード」等に拭き残しがないか確認します。
- もしくは「KeePerチェックライト（推奨）」でボディ全体に拭き残しがないか確認します

STEP.4 レジンコーティング

❶ ダイヤⅡレジンを施工する

施工内容は
「ダイヤⅡキーパー STEP4 レジンコーティング」参照

参照ページ：P13～ P18



❷ 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化 もしくはコーティングホールドの作業を行う



参考

- ダイヤⅡキーパーは、すべてを施工した後、
  水や雨に濡れない環境ならば「夏2時間～冬5時間」の自然硬化して完了です。
- すぐに室外に出して雨などに濡れる可能性がある場合は、
  施工後10分間置いてから「コーティングホールドの作業」を行い、完了です。

コーティングホールドの施工内容は
「ダイヤⅡキーパー STEP4：レジンコーティング」参照

参照ページ：P19

DIA II KeePer®

プレミアム仕様

Bメンテナンス

プレミアム仕様Bメンテナンス の施工内容

Bメンテナンス

ボディとドア内側のステップ部分に
「ダイヤモンドキーパーケミカル」・「ダイヤⅡレジン」を施工します。


爆ツヤまたは
爆白ONE

＋


ダイヤモンド
キーパーケミカル

＋



ダイヤⅡレジン





さらに、窓ガラス・レンズ・ホイール・樹脂パーツの被膜を入れ替えます。

窓ガラス

シリコンウインドウKeePer



シリコンウインドウ KeePer
シリコンウインドウ KeePer 仕上げ剤
グラスポリッシャー GPⅢ

レンズ・バイザー

レンズコーティング



ポリカコート
爆ツヤ or 爆白 ONE

ホイール

ホイールコーティング（ダブル）



ホイールコーティング 2
ホイールクリーナー

※通常のホイールはホイールコーティング（ダブル）、
マットホイールには「マットホイールコーティング」を施工

無塗装樹脂パーツ

無塗装樹脂パーツキーパー



ベストブラックⅡ
爆ツヤ or 爆白 ONE

ダイヤⅡキーパー プレミアム仕様Bメンテナンス 作業の流れ

	【Bメンテナンス】 ボディ	【Bメンテナンス】 ドア内側のステップ部分	ホイールコーティング ダブル	ホイールコーティング マット	レンズ・バイザー コーティング	シリコンウインドウ キーパー	無塗装樹脂パーツ
							
使用ツール	●ダイヤモンドキーパーケミカル ●ダイヤⅡレジン ●爆ツヤ または 爆白ONE	●ダイヤモンドキーパーケミカル ●ダイヤⅡレジン ●グラスアップゼロ	●ホイールコーティング2 ●ホイールクリーナー	●マットテクスチャガラス ●マットテクスチャレジン ●マットホイール キーパーブラシ ●ホイールクリーナー	●ポリカコート ●爆ツヤ または 爆白ONE	●シリコンウインドウKeePer ●シリコンウインドウKeePe仕上げ剤 ●グラスポリッシャーGPⅢ	●ベストブラックⅡ ●爆ツヤ または 爆白ONE
STEP.1 洗車	洗車		洗車	洗車	洗車	洗車	洗車
STEP.2 汚れ落とし	爆ツヤ または爆白ONE	グラスアップゼロ	ホイール クリーニング	ホイール クリーニング	爆ツヤ または爆白ONE	油膜取り	爆ツヤ または爆白ONE
STEP.3 ガラス コーティング	ダイヤモンド キーパーケミカル		ホイールコーティング（1回目）	マットテクスチャ ガラス			
STEP.4 レジン コーティング	ダイヤⅡレジン		ホイールコーティング（2回目）	マットテクスチャ レジン マットホイール キーパーブラシで掻き出す	ポリカコート	シリコンウインドウ KeePer	ベストブラックⅡ
コーティング ホールド			（コーティングホールド）		（コーティングホールド）		（コーティングホールド）

※ダイヤⅡキーパーのホイールコーティングは【ダブル】または【マットホイールコーティング】になります。※各工程の作業内容は別途マニュアルを参考ください。

❶ オプション（鉄粉が付着している場合）

鉄粉取り

塗装面に鉄粉が付着している場合のみ
行います



鉄粉取りで使用するツール

- ピュアアップ4
- アイアンイーター
- トラップ粘土 青



⚠ 注意：塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

STEP.1　ピュアアップ4

**❶ 洗車を行い、濡れた塗装面にピュアアップ4を
ボンネット半分程度にスプレーし
手で伸ばす**





**❷ 30 ～ 40 ㎝四方を1スパンとし
トラップ粘土（青）でタテヨコに素早くこする**

⚠ 注意
- ピュアアップ4が乾かないように注意してください。

参考
- ボディが乾きそうになったら水をかけてください。
- 鉄粉が取れたか、手で確認しながら作業を行ってください。







**❸ ❶～❷の作業を
鉄粉の付着している箇所に行う**

⚠ 注意
- 鋭角なプレスラインは、またがないように
  作業してください。
- 1度地面に落とした粘土は廃棄し、使わないでください。



STEP.2　洗い流し

❶ 水で洗い流す



多量の鉄粉が付着している場合

用意するもの
- アイアンイーター
  （鉄粉除去剤）





①濡れたボディに
アイアンイーターをスプレーする。



②日陰で乾かない程度に
つけ置く。



③洗い流し、
STEP.1～2の作業を行う。

❷ オプション（経年車で塗装が劣化している場合）

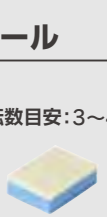
細密研磨

塗装表面が相当劣化している場合のみ
行います



細密研磨で使用するツール

●アクアポリッシュ2
●RUPES（ルペス）LHR12E（回転数目安：3～4）
●低反発バフ
●マイクロスポンジ
●マスキングテープ







⚠ 注意：塗装面が乾いた状態で作業してください。

STEP.1　マスキング

❶ 洗車後、マスキングをする





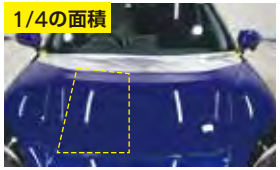
参考
● ワイパー付近やウォッシャーノズルなど、
必要な箇所をタオルやマスキングテープで
保護してください。

STEP.2　アクアポリッシュ2

❶「アクアポリッシュ 2」をボンネット 1/4 の面積に適量つけて塗り広げる

*大豆1～2粒くらいの量





❷ タテヨコに磨く



注意
● 安全のため「低反発バフ」を塗装面と平行に
軽く当ててから、スイッチを入れます。
● バフは塗装面と平行に当てて磨いてください。
バフの回転が止まるほど強く押さないでください（機械の故障に繋がる）
● ゴム部、黒い樹脂部にはポリッシャーを当てないようにしてください。
● ポリッシャーのコードが車に触れないように、
上面を施工する時は、コードを肩にかけて作業してください。
● プレスラインは「ポリッシャー」が
クロス方向にまたがないように作業をしてください（下地が出やすくなり危険）

塗装面に「アクアポリッシュ2」がからむ場合は、
「ポリッシャー」の回転数を低くして磨いてください。
それでも改善しない場合は、キレイなバフに交換してください。



❸ 細かい部分を「アクアポリッシュ 2」をつけた「マイクロスポンジ」で磨く





STEP.3　洗い流し

❶ 水で洗い流し、再度洗車を行う



注意
● マスキングを剥がす際は、
水で湿らせてからゆっくりと剥がしてください。

参考
● 隙間や細かい部分を
特にしっかりと洗い流します。
● 洗車後、残ったアクアポリッシュ2は
キーパークロス（マイクロファイバークロス）で拭き取ります。

撥水効果についての基礎知識

ダイヤⅡキーパーを施工して数カ月後に洗車をした時に「水はじきが少し落ちた」と感じられた場合でも、それは EX キーパーのコーティング被膜が壊れた訳でも、効果がなくなったからでもありません。水はじきを邪魔する「撥水阻害被膜※」が乗っている場合がほとんどなのです。この撥水阻害被膜は、非常に薄く、もろいものなので簡単に除去してもとの撥水効果を取り戻すことができます。

※自然界には様々な汚れがあり、日常生活の中でそれらが車体にかかります。どれもすぐに洗い流せば全く問題ありませんが、時間が経過し条件が重なった場合において、洗い流しにくい目に見えない程度の「薄い汚れの膜」がコーティング被膜の上を覆います。この外的要因によってコーティング被膜の上にできた、撥水を妨げる膜のことを「撥水阻害被膜」と呼びます。

水はじきを邪魔する主な「撥水阻害被膜」の原因



黄砂によってケイ酸塩被膜・炭酸カルシウム被膜ができる

黄砂を大量に含んだ雨が降ってボディの上で乾くと、コーティング被膜の上に薄く「親水のケイ酸塩被膜・炭酸カルシウム被膜」を作ることがあります。
その結果、コーティング被膜が撥水しなくなったように見えてしまいます。



洗車後の水を拭き上げないで水道水や井戸水によってミネラル被膜ができる

洗車(特にセルフの連続洗車機)などで水を拭き上げないと、水道水(井戸水)がボディの上で乾き、薄く「ミネラル被膜」を作ることがあります。
黄砂と同様に撥水を妨げる原因となります。



雪の多い寒冷地域で雪道にまかれた融雪剤によって塩化カルシウム被膜ができる

融雪剤で用いられる塩化カルシウム・岩塩は水をはじきません。洗車をしても、塩化カルシウムの薄い被膜が残り、撥水阻害の原因となります。

ミネラル取り洗車

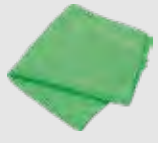
洗車をすることで撥水効果を
簡単に取り戻すことができます。



比較的頑固になってしまった撥水阻害被膜が付いている場合には、
「キーパークロスに少量のミネラルオフをよく揉み込んで」
洗車の最終拭き上げをすると簡単に取り除くことができます。

ミネラル取り洗車で使用するツール

●ミネラルオフ
●キーパークロス





❶ 洗車をし、洗い流す。





❷ キーパークロスに少量のミネラルオフをつけよく揉みこむ





❸ 洗車の拭き上げをしながら撥水阻害被膜を掻き取ると撥水と輝きが復活





マイクロファイバークロスの再利用について

コーティング施工後の「マイクロファイバークロス」は再利用できます。
コーティングに使用後のマイクロファイバークロスは、
すぐに「クロスポクリーナー」を加えた水に
漬け置いてください。

使用するツール

●クロスポクリーナー



❶ バケツに水を入れ「クロスポクリーナー」を加えます。



参考
- 目安は水10ℓにクロスポクリーナーキャップ1杯程度

❷ コーティング施工後すぐにマイクロファイバークロスをバケツの中に漬け置きます。



❸ その後、市販の洗濯洗剤で洗濯します。



参考
- 再利用し続けて、硬くなってきたり、コーティングが拭き取れにくくなってきたら、ウエスなど他の用途に使用してください。